

解答プリント「中学社会・地理的分野」

■確認プリント

10 中部地方／関東地方

【評価の観点】㊦：思考・判断・表現 ㊦：技能 ㊦：知識・理解

解答例	解説
<p>㊦ (1) 信濃川</p> <p>㊦ (2) ア</p> <p>㊦ (3) 輪中</p> <p>㊦ (4) d</p> <p>㊦ (5) 豊田市</p> <p>㊦ (6) 石川県</p>	<p>㊦ (1) 信濃川は関東山地を源流とし、長野県内では千曲川とよばれ、新潟県に入り信濃川と名を変える。下流域の越後平野は、かつては水はけが悪い湿田が多かったが河川の改修、土地改良により日本有数の米の産地となっている。</p> <p>(2) 地図中のAは日本海側の気候に属する富山市、Bは中央高地の気候に属する松本市、Cは太平洋側の気候に属する浜松市を示している。アは一年を通して降水量が少なく、夏と冬の寒暖の差が大きい中央高地の気候、イは冬の降水量が多い日本海側の気候、ウは温暖で夏の降水量が多い太平洋側の気候を表した雨温図である。</p> <p>(3) 木曾川・長良川・揖斐川の下流域を示している。この地域には、洪水から集落や耕地を守るため、周囲を堤防で囲んだ輪中が多く見られる。</p> <p>(4) aは稲作がさかんな越後平野、bはりんごなどの栽培がさかんな長野盆地、cはぶどう・ももの栽培がさかんな甲府盆地を示している。dの牧之原は明治以降茶畑が開かれた。</p> <p>(5) 自動車メーカーの名が都市名となった。</p> <p>(6) 県庁所在地の金沢市は加賀 100 万石の城下町として発達した。</p>
<p>㊦ (1) 越後山脈</p> <p>㊦ (2) 関東ローム</p> <p>㊦ (3) 高原野菜</p> <p>㊦ (4) 貿易港 成田国際空港</p> <p>㊦ 輸出品目 集積回路</p>	<p>㊦ (1) 群馬県、新潟県、長野県、栃木県の県境となっている。流域面積が日本最大の利根川の源流でもある。</p> <p>(2) 水を得にくい台地が広がっているため、本格的な開発は江戸時代になってから行われた。</p> <p>(3) 浅間山麓の嬬恋村周辺を示している。八ヶ岳山麓の野辺山原とともに高原野菜の栽培がさかんである。収穫した野菜は保冷トラックにより消費地まで運ばれる。</p> <p>(4) 貿易港 千葉県の成田に建設された成田国際空港である。国際線の中心空港であるが、東京国際空港〔羽田空港〕も国際線の定期便が再び就航するようになり、共存をめざしている。</p> <p>輸出品目 飛行機による輸送は、軽量のわりに単価が高く、飛行機を利用しても採算がとれる品物や、鮮度が要求される生鮮食料品などが多い。</p>